

**阪神梅田本店における  
「初個展」のご案内と  
御紙掲載のお願い**

**< 2019年10月30日～11月5日開催 >**

# 阪神梅田本店における初個展のご案内

< 2019年10月30日～11月5日開催 >

## — 「薫風展」 について —

はじめまして。画家の岡部遼太郎と申します。この度阪神梅田本店で初の個展を開催するに至りましたので是非御紙に取り上げていただければと思いご連絡させていただきました。

今回の初個展は男子アーティストユニット「薫風」の活動の一環として開催する展覧会になります。

薫風は前述の通り男子のアーティストが集結して2013年に結成されたものであります。様々な技術、様式によって作品制作を作家それぞれが行っており、日々切磋琢磨しております。活動自体は今年で6年目となります。



これまで薫風メンバーによる展覧会は各地で開催されてきました。大阪はもちろん、東京都、栃木県、埼玉県、広島県など全国各地に渡ります。そんな中今回の展覧会は「初」の個展開催となっております。

また、薫風は若手画家がこれから先若手作家が自立して作品収入を得るための活動です。メンバー全員で行うグループ展で力を身につけて各々が「個展」を目指して活動を今まで行ってきました。6年間活動を続けてきて初の個展となりますので何卒御紙に取り上げて頂きたく筆を取っている次第でございます。



↑ 去年の展示の様子です。

これらは多くの活動は、アーティストが職業として収入を得るという視点を持ち活動しているという点においても他のアーティストユニットと一線を画している部分であります。

展覧会には売り上げのノルマなど現実的な面もあり、実際に売り上げを作っていくためにメンバーが各々工夫したり努力を行なっています。これらの視点は今までのアーティスト活動にかけていた部分とも言えます。

自営業者として成り立つように活動を行なっているので、多くのアーティストと違い会場の設営なども自分たちで責任を持って行なっております。



# —活動の様子について—

私が初めて参加した  
2016年度の阪神薫風展の  
会場の様子です。

非常に緊張していましたが  
多くの方にご高覧いただけた  
のを今でも覚えております。



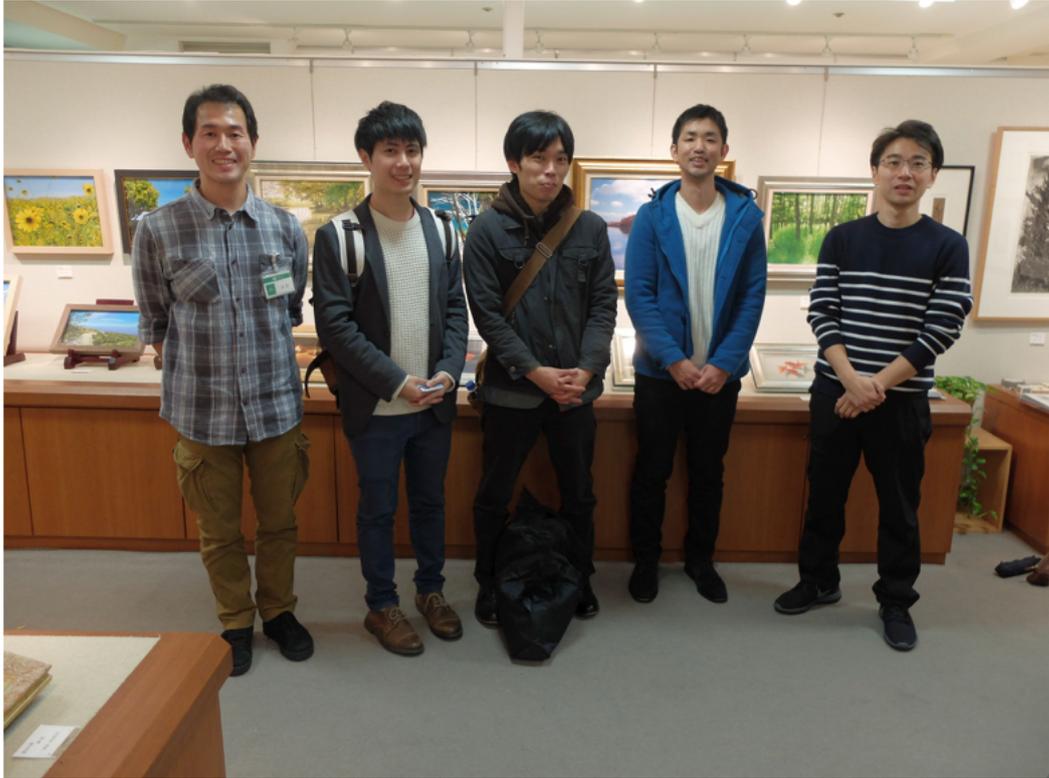
薫風のメンバーです。  
年によってメンバーが  
変わることもあります。  
この年はこの5人で  
頑張っておりました。



非常に会場が賑わっていて色々な年齢層の方にご来場いただけています。改築中の阪神梅田本店なのでややぎゅうぎゅうです。

脚立での作業は専門の業者さんがやったりしますが私たちは自分で行います。何でも自分でやってみることが大事です。





2017年の薫風のメンバーです。



初日にはメンバーで飲み会をします。毎回恒例の儀式です。



阪神百貨店は改装中ですが、2017年も好評で様々な方にお越しいただきました。毎回楽しみに来てくださるお客様もいて感謝しております。



この年は体調不良で倒れてしまい、片付け作業には参加できず他のメンバーが行ってくれました。慣れない土地での展覧会はかなり体力を使います。



2018年の会場準備の風景です。改装されて少し  
広くなりました。



この年は先輩の藤井さんは途中から参加しましたので  
飲み会は3人です。



改装前の会場に比べて表にショーウィンドウがあったりして展示できる場所が増えたのは非常に嬉しい部分です。



この年は大きなイベントとしてギャラリートークを行いました。自分のこれまでの活動や制作で気をつけている部分やテーマなどについて自分で解説しています。多くのお客さんの前で喋る機会はありませんでしたので少し緊張しました。

多くの方が詰め掛けてくださいました。後ろの方では立ち見でギャラリートークを聞いてくれる方もいました。





無事終わり2019年はこの会場をふたつに分けて先輩の齋藤悠紀さんと私とのW個展という形になりました。

大学在学中からこうした百貨店を舞台にした活動をしている同級生や他の美大の知人は非常に少なくまた、積み重ねによって個展へ昇格して行くスタイルは誰の目にも分かり易く「密室主義」でした日本のアート業界に薫風を流し入れた形になったと私は思います。

## —岡部遼太郎の作品について—

私岡部遼太郎は長年にわたりアクリル絵の具と油絵の具を組み合わせた独自の技法によって「遺跡」や「廃墟」などをモチーフにした作品を制作しております。最近ではイタリアのローマへ行き取材を行ったりなどしています。



私が廃墟や遺跡などをモチーフにして作品を制作するのはそれらのモチーフが私の根底にあるテーマを描くのに非常に適しているからです。私の作品制作のテーマは「人が持つ時間の有限性や儚さ」です。

このテーマはここ近年一貫して描いているテーマですが、とても奥が深く人類の歴史やこれから先の未来にも関係してくる非常に重要なテーマだと感じています。

また作品制作も非常に時間をかけて行っており、絵の具を何度も薄く重ねていく技法を使用しています。非常に昔から使われている伝統的な技術を現代的な解釈でリバイバルしたものです。



今展で展示する作品のアトリエ制作風景です。



「バベルの塔」をテーマとした作品群です。

バベルの塔は実在はしていません。聖書の中で登場する架空の建築です。

人の愚かさや傲慢さを物語の中では書いています。



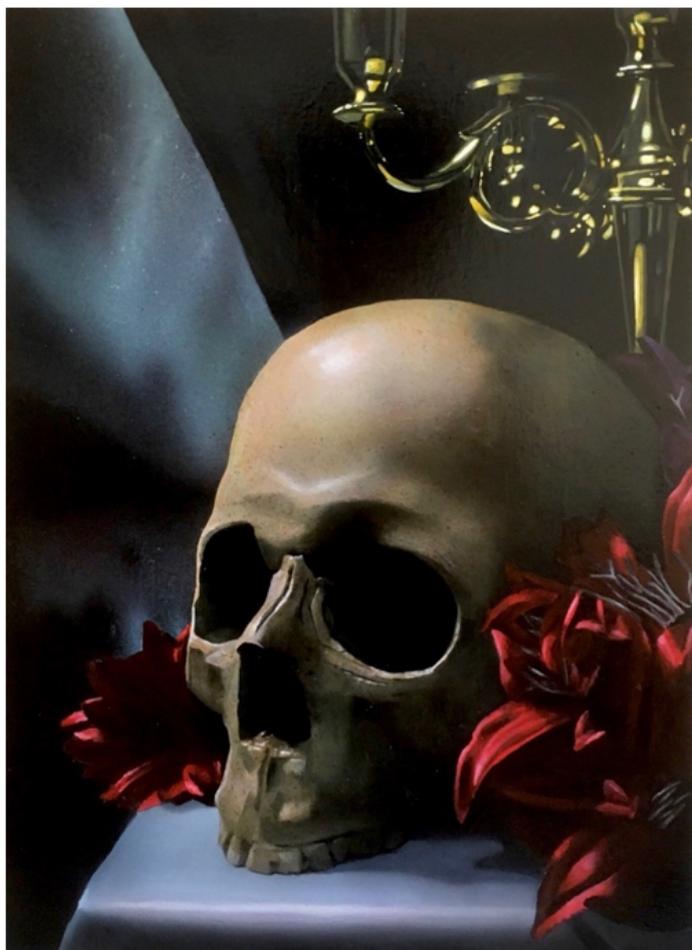
現代の建築物が廃墟になった様子を  
描いた作品群です。  
人間がこの世界から存在しなくなり、  
自然の中に飲まれていく様子を描く  
ことで人間という  
存在の小ささや儚さを表現しています。





地平線をテーマにして描いた作品群です。  
大きく広がっていく空間は人とこの星の関係性について  
思い起こさせてくれるモチーフです。

西洋美術の歴史の中でも繰り返し描かれてきた「ヴァニタス」と呼ばれる静物画を今回は出品します。



西洋の人たちは静物画のモチーフ一つ一つに意味を持たせて描くことで、教訓や人生の意味、人の儚さを静物画を通して表現していました。

この度の初個展においても売り上げは非常に重要なファクターとなっております。6年間ユニットとして独り立ちの「個展」を目指してきてようやく現実になりました。しかしながら、今回の展覧会において多くの方にお越しいただけないと他のメンバーが個展を行う前に会場を使用することが出来なくなってしまうということです。

なので多くの方にご高覧いただけるよう、何卒御紙に本展のご掲載をお願いできればと思います。

また、本ご案内に掲載しています作品は、付属のROMにデータとして入れております。こちら是非ご使用いただければと思います。アーティスト2名とも全日程会場に在廊しておりますので取材等も心待ちにしております。是非よろしく願いいたします。

